

ございます。よろしくご審査賜りますようお願い申し上げます。

## 平成20年度長井市各会計補正予算 に関する質疑

○町田義昭委員長 概要の説明が終わりました。

これより質疑を行います。

ここで、総括質疑の発言通告がありますので、順次ご指名いたします。

### 蒲生吉夫委員の総括質疑

○町田義昭委員長 順位1番、議席番号17番、蒲生吉夫委員。

+ ○17番 蒲生吉夫委員 補正予算の総括質疑というのは多分10年以上ぶりだと思いますけども、補正でなければならぬような問題なのではないかというふうに考えましたので、教育長にご答弁をお願いしたいと思います。

委員長の許可をいただいて、1月9日の山形新聞の投書のコピーを皆さんにお配りしていると思いますが、新聞読まなかった人もいるだろうし、読んだとしても忘れていた人もいるだろうし、その方がいいかなと思いました。

この問題は、斉藤繁さんという名前になっていますけども、新聞に投書するときには匿名、無記名だったりなんかすると大抵取り上げない場合が多いんですね。普通、私とって雑誌もそうなんですけども、基本的には記名の投書、投稿を取り上げるというふうになるので、多分そういう投書なのではないかなというふうに私も1月9日の新聞を最初読んだときに感じました。もう一つは、どうも私の近くで起きている

ことなんだなというのが、これは勘なんですね。私は感じていたので、この新聞を私もスクラップしときました。自分の子供だったらと思った場合に本当に胸が締めつけられるような思いだったんですね。その後、私も多分この投書を書いた人だろうと思われる人に手紙をいただきました。こういう手紙ですね。これは荘内銀行の封筒に、現金を入れる封筒ですね、それに切手を張って私にいただいたものなんです。私ら議員やってると、無記名の投書、手紙だとか、名乗らない電話だとか、時々あるんですよ。ほとんどの場合は、それは、名乗らないでやるというのは批判したいときに大体書くものなんですね。そういう場合に電話よこすものなんですね。しかしこの手紙は違います。後で紹介したいと思えますけれども、感じているのは、長井市内の学校でないんでないかという考え方もあるかと思えますけども、南北中学校のどっちかだと思います。その意味では、きちっと調査をすれば、いじめているのはだれでいじめられているのはだれだとほとんど私は特定できるんでないかというふうに考えているんですね。なので、議会としては総務・文教の常任委員会に1月21日の全員協議会の後に報告がありましたね。その報告を会議録をして私は読みました。その前に教育委員会の委員の方々にも多分報告したんだと思いますね。そのときに報告したとすれば、その中身と対応方針みたいな部分を先にお聞かせ願いたいなというふうに思います。

○町田義昭委員長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 教育委員会への対応ということですけども、今、蒲生吉夫委員の方からあったように、1月21日に総務・文教で報告しました。教育委員会の方には1月20日の市長と教育委員の懇談会がありましたので、その前段で対応について、総務・文教に報告したような内容で報告をさせていただきました。

○町田義昭委員長 17番、蒲生吉夫委員。

○17番 蒲生吉夫委員 そこではどういうふうな扱いをするようにとか意見は何もなかったんですか。

○町田義昭委員長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 その前に、校長会等を開いて対応していますので、その対応について私の方から教育委員会の方に報告した。じゃあ、何かこの投書に対する教育委員会としての考え方を新聞に載せるとか、そういう話にはなりません。

○町田義昭委員長 17番、蒲生吉夫委員。

○17番 蒲生吉夫委員 そうなんです。要するに内部的に対応してしまってるんですね。校内で起きてることというのは何となくどういう扱いをするというのが私も見えるんですよ。というのは、例えば教育長は南中で最後、定年を迎えましたね。定年を迎えるまで何事もなく終わりたいなど、こういう気持ちというのは私わからないわけじゃないんですよ。要するに言ってみれば事なかれ主義というのが一般的にある。一般論ですから教育長がそうしたなんて全然そんなこと思ってませんので、ただやっぱりそういう問題というのは、あれぐらい詳しく投稿があったわけなので、学校で例えば担任してる人を集めて、教員全部集めてもいいですね。この投稿に感じてるクラスないかと聞けば私はほとんど感じているんだと思います。そういうふうなやり方したのか、それとも校長を集めて、どうなんだ、どこか思い当たる節ないかというふうに校長の感覚だけで話をしたのか、その辺はどうなんでしょうか。

○町田義昭委員長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 1月13日に臨時校長会を持ちました。12日が成人の日で月曜日で休みで3日間連休だったんですね。私もある方から電話をいただいて、その投書を読んで、これは事実確認をきちんとして対応しなければならないということで臨時校長会、休み中だったものでは

ら、市の校長会の連絡網というのがあって校長会長に指示をして連絡をしてもらって13日に集まってもらった。そのときに指示した内容というのも、総務・文教のときもお話ししたんですが、まず5点ほど指示をしたわけですけども、1つは投書にあるような事実があるかどうかを確認してくださいと、2つ目はもしあったとしたらやっぱり教育委員会と連携をしながら速やかに誠意を持って対応しなきゃならないですよと、3点目は今回の投書の内容が事実であるかどうかは別としても、部活動のあり方とかいじめに対する先生方の認識、あと生徒指導、そして保護者への対応などを改めて見詰め直し、日ごろの児童生徒理解を再確認する機会であるというふうなとらえ方をして生徒指導に万全を期すようにということで話をしました。

あわせて、4点目ですが、こういう不況時ですから、家庭環境の変化もあることから、児童生徒の表面的な言動の変化の裏にあるもの、家庭環境とかそういうものを見通すことの大事さとか、または子供に共感の心を持って接することの大事さ、これを指示しました。そして1月14日の午前までにその事実確認した結果を報告してくださいということで話をしたわけですが、各学校でどういう取り組みをしたかといいますと、代表的なものをちょっとお話ししますと、例えば西根小学校さんであれば中学校3年生の兄のいる子供さんというのはわかるわけです。8名いると。その8名でこの投書の内容に該当するような事実があるかどうか、これを確認しています。そしてあと子供たちに話をした学校もありますし、PTAの役員会で話をした学校もあると。私はこういう事実を隠すとかなんとかという気持ちは毛頭ありませんし、学校の方もそういう気持ちはありません。これまでも各学校からは平成17年度、18年度あたりにかけていじめ、自殺問題がかなり大きな話題になりました。その時点から不登校の状況、それにいじ

+

めの有無について毎月各学校から報告をいただいています。今年度の場合は12月にある小学校から1件、「無視された、無言電話があった」という子供の訴えがあったという報告をいただいています、それ以外何もなかったんですね。私もこの記事を見てびっくりしたところでした。以上です。

○町田義昭委員長 17番、蒲生吉夫委員。

○17番 蒲生吉夫委員 不登校になってしまえば、すぐわかるんですよ。不登校というものは2カ月以上連続して学校に行かなくなった場合のことを言うみたいですが、この子は多分いじめられても学校に行ける、比較的強い子なんだと思います。弱いからいじめられるんじゃないくて、精神的にはうんと強い子なんだというふうに思いますね。部活の顧問してたりクラス担任していて、これぐらいの投稿の中身があって気づかないんだとしたらアンテナが低過ぎると思います。定規で住所書いてるんですよ、定規で1本ずつ引っ張って。住所はこういうふうに書いてるんです。長井市川原沢県道川原沢口。市会ぎいん。議員は平仮名。蒲生吉男殿。

「お」は男。男の「カ」の方の上抜けてないですけど、これで私のところに来るということわかってる人なんですね。川原沢口なんてわかってる人は、かつて山交のバスかあそこ通っていたころ、私のすぐ北側のところに川原沢口というバス停があったんですね。私もここは覚えてるんですけども、そういうところわかる人なんです。だから、一番最初言ったように、私の近くで起きてるなという感覚というのはこういうことなのかなと。

この中には、投書のほかに新聞2つ入ってるんですよ。1つはコピーじゃなくて、日付もちゃんとわかるまで切ってくれたやつですね。これがさっきの投書、皆さんにお配りしてるやつですね。もう一つは「プレミアム商品券の1日で完売」という、この記事なんです。私

にくれた親書は、2つのこと書いてるんです。この程度の短い文章です。コピーしてくれないかと言われたけど、私に対する親書ですのでちょっとそれは控えさせてもらって、こっちのは定規で書いてますけども、とてもしっかりした字が書いてます。下に多分線の引いてあるものを敷いて、こう書いたんだと思いますけども、始まりのところも終わりのところも字の大きさもとてもよくそろっていて、字の上手な方だと思います。短いですから、2つ一緒に全部読ませてもらいます。ちょっと私個人のことも書いてある部分があるのでちょっと首かしげるところあるんですけども。

突然のお手紙、失礼いたします。新聞の投書を同封します。学校の中身は皆、本当です。名前は圧力がかかるので友人、知人のを合成しました。あなた様は教育に一番熱心だそうです。議会や教育会議で改善してください。この投書で、「おまえの家でないか」ともういじめに遭ったそうです。それほど大人の知らない学校です。逃げてはいけません。弱い立場を守ってください。

ここがさっきの投書の部分に対してです。もう一つは、下の方に、ついでだから全部読ませてもらいますけども、商品券は、本当にずい商店あるものです。親類や友人で車で券販売所を回り、1場所で30万円、中央、西根、平野などと転々とはしごで100万円余り、早速同業者と手分けして10%のさや稼ぎ。全部税金でないのか、これをするために会議で発言したのか、不公平を行政で後押ししている。返金させて正當に使うべきです。

これで全文です。非常にしっかりとわかりやすく書いてる、多分何回か書き直したんでしょう。そうやって考えていくと、またいじめられてるんですよ。子供ら同士でわかるんですよ、おまえのうちの人間でないかと。この投書は遠縁の子でとなってるけども、これぐらい書ける

のは身内でなければ書けないですよ。わからないですよ。書かれてすぐまたいじめられたというわけですから。対応しなかったので多分私にもうやむにやまれず書いたんだと思います。この封筒は消印が2月14日です。午後の消印ですね。12時から18時という消印です。

この投書を書いて、それぞれのところで対応になってるんでないかというところの様子を見て、何もなってないというような段階で書いてきたものというふうに私は感じるんですね。要するにこの文書はこの投稿を書いた人が私に手紙をくれたというふうに思っています。多分間違いないと思います。遠縁の子となってるけども、両親が祖父母ですよ。ほかの学校じゃないです。やっぱり市内の南北中学校のどっちかです。その意味では、すぐいじめられたという事実というのは多分うそをうちの人に教えたりなんかしていたんでなくて、そういうことはとても陰湿ないじめなわけだけでも、少なくとも生徒同士わかる。絶対わかる。いじめてる方もわからないはずがないというふうに思うんですね。犯人捜しをするようだけでも、こういうところというのは私は広くいろんな対策をしなきゃいけないとは思いますが、これ1つに集中的にやっぴりかかわっていくということが全体に対して影響するんじゃないでしょうかね。例えば全校集会で「こういうものがあつたぞ」ということを言って、やっぱり例えば高島の高校生が亡くなったり、だけでもいじめの事実は確認できなかったというふうな調査報告書ですね。再調査するようなこともあつたし、こういった悲惨な事件や事故が起こる前にやっぴりしなきゃいけないところというのはこの辺なのではないかなというふうに思うんですね。

多分それも15日、卒業式を迎える子だというふうに思います。卒業式、15日でしたよね、たしか。卒業式を迎える子だと思います。この子は不登校でないの、行ってるので、卒業する

んでしょうけれども、こういうところを対策するためのこういう予算なのではないかなというふうに思うんですね。総務・文教常任委員会の補正予算の説明をするときの資料、こういうふうに書いてるんですね。「問題を抱える子供などの自立支援事業委託金165万円」となっているけれども、補正予算としては3万9,000円ですね。3万9,000円なんですよ。「文部科学省が都道府県教育委員会に事業を委託し、都道府県教育委員会及び市区町村で実施、不登校、暴力行為、いじめ、児童虐待、高校中退への対応といった学校が抱える課題について未然防止、早期発見、早期対策、対応などにつながるような効果的な取り組みについて実践研究を行う」というようなことですが、こんなにいっぱいできないですよ、どう考えても。不登校なら不登校、暴力行為というのは暴力をする方だと思いますね。いじめというのはいじめる方だと思いますね。児童虐待というのの子供を虐待するわけだから、子供以外の大人の部分ですね。高校中退はいろんな理由があつて中退することもあるでしょう。そういうところというのは、私はやっぱりいろんなこと考えても、そんなには私できないんだと思いますね。できればやっぱりこの問題、もう1回私が取り上げたわけで、「卒業したら、あと二度とあんな学校の前も通りたいくない」と、こんな学校で卒業されても私は本当に自分の人生の生涯に残すと思うんですね。対応したけどもだめだったと、わからなかったと、このことがやっぱり見えることが必要なのでないかなというふうに思って取り上げるんですよ。どういうふうにして、もう1回私が提起したわけで、これに対応することができるかというあたりを教育長自身どういうふうにかお聞かせ願えたらありがたいなというふうに思います。

○町田義昭委員長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 今回のこの投書の件とちよっ

+

と話が別になるかもしれませんが、私、こういった学校にいろんな形で調査をしていただいたり、または子供に当たって、またはPTA役員に当たって、「いや、こういう事実はありません」という報告を受けたときに、もう1回、投書を読み直してみました。何か書かっている内容、いじめとか部活動のこととか書かっていますが、最後の文章は、とりようによっては長井市は教育で有名な市だからこういうことにきちんと対応してほしいと、そういう願いなのかなというふうにも受け取ったんです。ところが今、蒲生吉夫委員の方に手紙が来たということですから、恐らく書いた方は長井市の方なんだろう、そして長井市の学校を対象にして書いているのじゃないかというふうに思ったわけですが、大事なことは、私はやっぱり経験上こういうことがありました。そのときには投書とかなんかでなくて、直接当該学校なり教育委員会なりにこういうことがありますからというご相談いただければ対応できるんですが、今回学校でも本当に時間を費やしている調査をしてもらった、ところがなかったと、そのずれがずっとどこまでも平行線ですれてしまうわけですよ。そうすると対応ができなくなる。

私は、今回こういうふうなご質問もあるし、ご指摘もあったわけですので、「もしそうであればこういうところに相談してください」というふうに呼びかけをしようかなと、新聞にでも、そうでなかったらなかなか事実関係がつかめません。学校でも精いっぱい私はやっていただいたんじゃないかなというふうに思っています。また、いじめというのはやっぱり目に見えるところでやるわけじゃなくて見えないところで起こるということもありますし、子供ら同士ではわかっているということはあるけども、それは言えない、そういうこともあって、大人の方に伝わらないということもあるんだと思いますが、でも何か今回の件に関しては学校の報告を

私らは信じてきたわけですけども、でもまた「おまえのうちでないか」というふうな、そういう手紙があったとなればそれにも対応しなきゃならないと思います。ただし、今回も各学校では子供についてもいじめについて再指導している学校も結構ありますので、もう1回校長会等でこのことについて検討して、そして私はやっぱりあってはならないことですから、もしもこの新聞の投書の内容が事実であるとすればやっぱり先生方の認識不足だと思うんです、事実であるとすれば。「恐らくそれはじゃれですよ」なんて言う先生いないんじゃないかなというふうには思うんですけども、そういう点でもう1回校長会でこのことについて検討をしてみようというふうに思います。

あと問題を抱える子ども等の自立支援事業ですが、これ今、長井市にお2人の教員OBお願いしてるんですが、各学校からは大変ありがたいというふうに感謝をされている。別室登校なり不登校の保護者との対応なりやっていただいているわけですが、なかなか学校でそっちの方に手が回らないということも現実的にありますので、そういう面で非常に感謝をされている事業だなというふうに思っています。以上です。

○町田義昭委員長 17番、蒲生吉夫委員。

○17番 蒲生吉夫委員 ここでやっぱり教育委員会としてやってもらいたいのは、本当は私でなくて教育委員会に真っすぐ投書してもらえればいいですよ。市民的にはどうなのかわからないですけども、教育委員の皆さんがいても選挙やってうるさく回ってる人間の方が市の関係でいくと万能だというふうにとらえてるのかどうかわかりませんよ。そこに手紙やれば、あと何とかなるかもしれないと、とてもせつない思いだと思いますけれども、やっぱりそういう相談もそうですし、今回のそういう取り組みの経過、何もしてこなかったわけではもちろんなくて、そのことがわかるように何かにやっぱり

文字にして残しておく必要があるんだと思います。市報でもいいでしょう。しばらく時間がたってらんで、1月9日の投稿に対してどうだなんて言えないと思いますし、職員のメール問題については市長の投稿、後で載せていたようですが、ちょっとその時期ではないなという気がしますし、何かの紙面を使ってやっぱりする必要があるのでないかなというふうに思います。各学校の生徒に伝わるものとか、一般に市報使わない場合にはそういう方法だっているでしょうし、何らかのそういう対応をする必要があるのではないかなというふうに思いますけども、いかがでしょうか。

○町田義昭委員長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 教育相談の体制については、今年度も6月の市報でこういうのがありますということで、見てもらってるかどうかちょっとわかりませんが、こういうものをもう少しPRする必要があるなというふうには今回思いました。教育委員会としての見解というか、学校での対応なんかについて、先ほども申しましたけども、何らかの形で出す必要があるのかなというふうには私個人的には今お話を聞きながら思ったところですので、3月11日に教育委員会がありますから、その折に話題にして検討させていただきたいというふうに思います。

### 高橋孝夫委員の総括質疑

○町田義昭委員長 次に、順位2番、議席番号10番、高橋孝夫委員。

○10番 高橋孝夫委員 おはようございます。

私は、市の行財政運営が住民生活の向上につながることを願いながら総括質疑を行います。2点について順次質問申し上げますので、ぜひ明確な答弁いただきますようお願い申し上げます。

おきたいと思います。

質問の第1は、あやめ公園高台用地取得と事業展開についてです。

具体的な質問に入る前に、この内容について確認をしておきたいと思います。このたびの平成20年度一般会計補正予算第5号では、あやめ公園高台用地購入費として5,450万円、あやめ公園高台測量調査業務委託料として200万円、観光施設整備工事費としてあやめ公園トイレ整備費242万4,000円を支出をするという提案がなされていることはご案内のとおりです。合計5,892万4,000円ほどの支出となるようです。加えて平成21年度当初予算では、あやめ公園高台広場児童遊具新設工事費として3,115万7,000円という提案がなされておりますから、合計すれば9,008万1,000円の支出をして諸整備を展開するということになるようですが、商工観光課長に伺いますけれども、申し上げた内容で進めるという計画なのかどうか、工事費などの確定的な数値についてはどうか、まずお聞かせいただきたいと思います。

○町田義昭委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答えいたします。

20年度の交付金に係る補正、それから21年度の予算提案額につきましては、今委員がおっしゃられた内容でございます。なお、工事額等につきましてはまだ最終的に確定したものではありません。

○町田義昭委員長 10番、高橋孝夫委員。

○10番 高橋孝夫委員 ちょっと前の人がいきなり終わってしまったものですからどぎまぎしておりますが、わかりました。

それで、重ねて伺いをしますけれども、これらの財源の問題ですけれども、平成20年度分については地域活性化・生活対策臨時交付金5,892万4,000円を充当して、平成21年度分については商工費県負担金である新野川第1発電所完成記念事業負担金3,000万円を充当するとい